

宗教と社会(JS)

月5 GAITANIDIS IOANNIS先生

キーワード: sociology of religion 宗教社会学 religion in contemporary society
現代社会における宗教 group argumentation 協働論証

←実際に利用した資料にはチェックをしましょう。

★のついている図書は、授業開始から1年間は本館N棟2階授業資料ナビコーナーに配架します。

図書 本には、テーマに関する内容がまとめられています。授業のテーマをつかむにはまずはここから始めましょう。

- 宗教と社会のフロンティア：宗教社会学からみる現代日本 / 高橋典史, 塚田穂高, 岡本亮輔編著 勁草書房 2012
→ 本科目の教科書。現代日本における宗教と社会の関係を簡潔に解説している若手研究者の著者らの視点は大学生にとって貴重な勉強になる。頻繁に耳にする「靖国問題」、「カルト問題」、「スピリチュアル」、「宗教教育」のような言葉がよく分からない人も、この一冊ですべて明らかになるはずである。
★【本館N棟2階ブックツリー授業資料ナビ 161.3/SHU】
- よくわかる宗教社会学 / 櫻井義秀, 三木英編著 ミネルヴァ書房 2007 やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ
→ 宗教社会学の入門書。宗教と社会に関わる概念・有名な理論と事例を見開き2頁で解説している。授業で使用された言葉の意味をもう一度確認したい時、この本を使ってもらいたい。
★【本館N棟2階ブックツリー授業資料ナビ 161.3/YOK】
- Religion in sociological perspective / Keith A. Roberts, David Yamane 5th ed SAGE/Pine Forge c2012
→ 宗教社会学の有名な教科書。「宗教とはなにか」という基本的な質問から、「グローバル化と宗教」という現代社会における宗教の位置づけまで、本科目のベースとなっている学問に興味ある学生にはおすすめ。授業で基本的な概念を説明する際に、本教科書を使う。
★【本館L棟3階A 519.8/REL】
- Religion and social crisis in Japan : understanding Japanese society through the Aum affair / edited by Robert J. Kisala and Mark R. Mullins Palgrave 2001
→ 1995年に起きたオウム事件日本社会に多大なインパクトを残した。この一冊は政治・法律・安全措置・メディア・他の宗教団体などの社会のあらゆるアクターがその後どのように反応したのかという簡単な問いに答えてくれる貴重な研究の成果である。オウム事件を無視して、現代日本における宗教と社会の関係を理解することはできないのだ。
★【本館L棟2階A 169.1/REL】
- 近現代日本の宗教変動：実証的宗教社会学の視座から / 寺田喜朗 [ほか] 編著 ハーベスト社 2016
→ 日本の宗教社会学者が最近扱っている課題や理論を知るためにちょうどいい本である。新宗教研究や人口減少時代の教団の社会的役割、または政教分離が問われる新たなケースの紹介を含め、「今」の宗教と社会の研究の代表的な論文が集まっている。専門用語が多いが、ケース・スタディも多いので、興味深い本である。
★【本館N棟2階ブックツリー授業資料ナビ 162.1/KIN】
- 宗教社会学を学ぶ人のために / 井上順孝編 世界思想社 2016
→ 1994年に出版された『現代日本の宗教社会学』の改正版。相変わらず、読みやすく、宗教社会学の基礎を理解するために欠かせないテキストである。
★【本館N棟2階ブックツリー授業資料ナビ 161.3/SHU】
- 世界の教科書でよむ「宗教」 / 藤原聖子著 筑摩書房 2011 ちくまプリマー新書:162
→ とてもオリジナルな本であり、宗教教育に興味のある学生だけではなく、外国では「宗教」はどのように教えられているかを単純に知りたい人にもお勧めしたい本である。宗教に関する教育はこれほど違うなら、それ以外のトピックについてはどうなっているかが気にならざるを得ないだろう。
★【本館L棟1階小型 371.6/SEK】
- 世界は宗教とこうしてつきあっている：社会人の宗教リテラシー入門 / 山中弘, 藤原聖子編 弘文堂 2013
→ 現代こそ、報道だけに頼らず、宗教リテラシーを自分で身に付ける必要がなってきた時代である。この本の特にいいところはその観点・アプローチである。「宗教を知る」ためのマニュアルではなく、「現実は何らかの問題に直面した場合の「考える道筋」を複数」(vii頁)提供してくれるテキストなのである。
★【本館L棟2階A 162/SEK】
- 宗教と政治の転軸点：保守合同と政教一致の宗教社会学 / 塚田穂高著 花伝社。- 東京 2015
→ 2015年度日本宗教学会賞を受賞した本であり、宗教と政治の関係を理解するには欠かせない本である。事例も多く、その分析も大変オリジナルで、興味深い！これは宗教と政治の関係についての教典である。
★【本館L棟2階A 169.1/SHU】

ジャパニーズスタディーズ共通資料

「ジャパニーズ・スタディーズ」は「日本」という事例を通して、「世界」を学ぶ、また「世界」を通して「日本」を学ぶという目的を持った科目である。以下は国際教育センターがジャパニーズ・スタディーズを履修する皆さんに薦める本のリストです。

- A modern history of Japan : from Tokugawa times to the present / Andrew Gordon 3rd ed Oxford University Press c2014
→ ジャパニーズスタディーズの科目の目的にふさわしい歴史の本である。それは1)現代日本の文化・社会を理解するにはこの400年ぐらいに起きた出来事を理解することが大前提であること、2)ゴールドンは現代化によって生じた変化は他の国と同様に、日本にもみられるというスタンスを守っていることにある。Already in its third edition, Gordon's monograph has become a classic textbook used in many universities around the world. The book offers also the advantage of holding the argument that the changes brought upon Japan by the process of modernization are not that different from those which have occurred in other countries.
★【本館K棟3階A 210.6/MOD】
- Critical issues in contemporary Japan / edited by Jeff Kingston Routledge 2014
→ 現代日本が抱えている問題とは何か、そしてそれを学術的にどのように説明できるかというテーマは本科目群の最も重要な目的である。この本では次の社会問題が解説されている:高齢化社会、雇用制度の変動、性差別、移民制度、市民社会、農村社会、3.11以降の日本、国際化、日中関係、など。How are we to understand and analyze from an academic perspective the issues that contemporary Japan is facing today? This book focuses on several topics such as the rapidly aging society, the changing employment system, gender discrimination, immigration, civil society, rural Japan, post-3.11 Japan, internationalization, Sino-Japanese relations, etc.
★【本館K棟3階A 302.1/CRI】
- Japan since 1945 : from postwar to post-bubble / edited by Christopher Gerteis and Timothy S. George Bloomsbury 2013
→ 戦後日本の歴史を新しい視点からみたいなら、この本を読むべきであろう。戦後日本に起きた社会・文化・政治的な変化がこの本では新しく解説されている:「故郷」のイメージの変動、第二次世界大戦の遺物・レガシー、日本の後期資本主義的国策、「外国」と「日本」の理想的なイメージとその現代歴史的な影響。This book looks at the social, cultural and political changes that have occurred in Japan in the last 60 years, by providing case-studies from frequently discussed topics such as the changing image of "furusato", the legacies of WWII, the late capitalist policies of Japan, and the historical impact of postwar imaginations of "Japan" and "the foreign."
★【本館K棟3階A 210.76/JAP】
- Re-inventing Japan : time, space, nation / Tessa Morris-Suzuki M.E. Sharpe c1998 Japan in the modern world
→ In today's "liquid", globalized society, it makes more sense to ask "how Japanese define Japan?" than to still ponder on "what Japan is?" This classic book of Japanese Studies analyses the way Japanese people have defined, over the modern period, such fundamental concepts as "nation," "Japan," "nature," "culture," "race," "gender," "civilization," "globalization," and "citizenship."
★【本館K棟3階A 210.04/REI】
- 日本を再発明する: 時間、空間、ネーション / テッサ・モーリス=スズキ著; 伊藤茂訳 以文社 2014
→ 「日本とは何か」という質問に答えるよりも、「日本人が日本をどのように定義してきたのか」という課題について考えたほうが流動的である現代世界に如何に有意義であろうか。日本学の古典ともいえるこの本は、次の概念に対しての日本人の考えを分析している:「国家」、「日本」、「自然」、「文化」、「人種」、「ジェンダー」、「文明」、「グローバル化」、「市民性」。
★【本館L棟2階 G15N87101】
- Mirror of modernity : invented traditions of modern Japan / edited by Stephen Vlastos University of California Press c1998 Twentieth-century Japan : the emergence of a world power:9
→ 伝統は、それを「伝統」と呼ぶ人々によって構成されているものである。本書が「日本の独特のマネジメント」から「国技としての相撲」まで、いくつかの事例を通して、日本の伝統文化と呼ばれるものは現代化によって大きく作られたものであると議論する。Traditions are made by those who call them "traditions." This book employs a series of case-studies, from the so-called Japanese-style management to the national sport of sumo, to argue that much of what is today called Japanese traditional culture has been constructed during the process of modernization of the country.
★【本館K棟3階A 302.1/MIR】
- Social research methods / Alan Bryman 4th ed Oxford University Press c2012
→ 研究方法論の教科書として、世界中の大学で使われている有名な本である。国際教育センターの教員も、学生時代にこの本を使って研究方法を学んだこともある。Bryman's book is one of the most widely used textbooks for research methods. Even some of the staff at the Center for International Research and Education were taught through this book during their years as graduate students.
★【本館K棟3階大型A 301.6/SOC】

授業資料ナビゲータ(PathFinder)入口 (<https://alc.chiba-u.jp/pathfinder/>)

作成: 千葉大学附属図書館